



## COVID-19・RSウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症の患者数の増加が続いています。図1にある通り、国内の1日あたりの患者発生数は連日1万人を超え、過去最多を日々更新しつつあり、大阪府の患者発生数も7月31日に1,040人と第4波以来1,000人を超えました。これまで東京都と沖縄県に発令されていた緊急事態宣言が、8月2日からは東京都以外の首都圏(神奈川県、埼玉県、千葉県)と大阪府にも発令されています。

当院のCOVID-19感染症による入院患者数は、第4波の終了後減少していましたが、第5波に入ったと思われる7月中旬以降再び増加し、7月の第5週には連日3名の新入院が見られました。当院のCOVID-19患者を収容する病床数は、大阪市北部地域においては十三市民病院や大阪市立総合医療センターに次いで多いですが、現状のままでは遠からず満床に近くなり、入院病床が逼迫することとなると予想されます。

気になる変異株について記載します。大阪府は第4波の時に、府内の流行株は変異株であるアルファ株(N501Y変異、表1)にほぼ置き換わったと言われており、これは当院でのCOVID-19陽性例に対する検査でも一致していました。7月に入って、当院では過去1週間にCOVID-19のPCR検査陽性であった検体に対してデルタ株(L452R変異、表1)の有無の検索を毎週行ってきました。7月30日にも過去1週間に陽性であった16検体の検索を行ったところ、4検体(25%)が「L452R 陽性」でした。この陽性例4例中の3例が、関東地方在住者が滞在者であり、同地方からこの変異ウイルスが関西地方にも流入し、増加しつつある現状を反映しつつあると思われる。この**デルタ株への置き換わりが進んでいくと、大阪府の患者数は東京のようにこれまでに大きく増加していくと予想されます**し、非常に危惧すべき問題です。

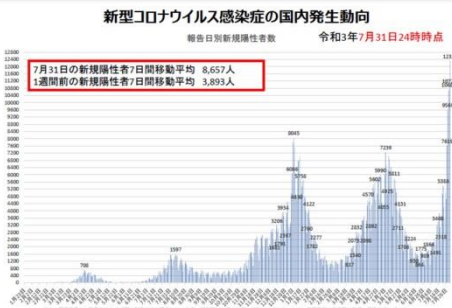


図1. 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(2021年7月31日まで)

新型コロナウイルスの懸念される変異株 (VOC)

| PANGO系統 (WHOラベル)       | 最初の検出            | 主な変異           | 感染性 (従来株比)                     | 重症度 (従来株比)  | 再感染やワクチン効果 (従来株比)                  |
|------------------------|------------------|----------------|--------------------------------|---|------------------------------------|
| B.1.1.7系統の変異株 (アルファ株)  | 2020年9月<br>英国    | N501Y          | 1.32倍と推定※<br>(6~7割増強<br>高い可能性) | 1.4倍 (40-64歳<br>1.6倍) と推定※<br>(高齢・重症化リスクが高い<br>可能性) | 効果に影響がある<br>証拠なし                   |
| B.1.351系統の変異株 (ベータ株)   | 2020年5月<br>南アフリカ | N501Y<br>E484K | 5割増強高い<br>可能性                  | 入院致死リスク<br>が高い可能性                                   | 効果を弱める<br>可能性                      |
| P.1系統の変異株 (ガンマ株)       | 2020年11月<br>ブラジル | N501Y<br>E484K | 1.4-2.2倍高い<br>可能性              | 入院リスクが高い<br>可能性                                     | 効果を弱める可能性<br>従来株感染後の再感染<br>事例の報告あり |
| B.1.617.2系統の変異株 (デルタ株) | 2020年10月<br>インド  | L452R          | 高い可能性<br>(アルファ株の1.5倍<br>高い可能性) | 入院リスクが高い<br>可能性                                     | ワクチンと抗体医薬の<br>効果を弱める可能性            |

表1. 新型コロナウイルスの懸念される変異株(厚生労働省ホームページ「第45回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード」資料4:  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00256.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00256.html)より)

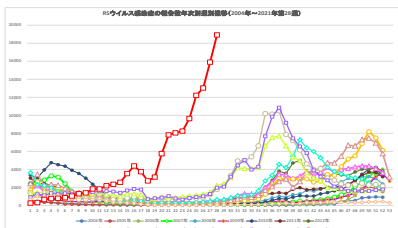


図2. RSウイルス感染症の報告数年次別週別推移 (2004年~2021年第28週)

次に、RSウイルス感染症の流行について記述します。新型コロナウイルス感染症の流行に重大な関心を持つことは国内共通だと思われるが、気がつけば昨年はほとんど流行がみられなかったRSウイルス感染症が、2004年のサーベイランス開始以降では最大の流行となっています(図2)。この流行は九州地方で始まり、大阪でも大きな流行となり、現在は首都圏を中心に全国的な流行となっています。8月はRSウイルス感染症の本格的な流行シーズンですから、今後さらに注意が必要です。(感染管理室 安井良則)

以上、8月は新型コロナウイルス感染症はもちろん、RSウイルス感染症にも充分な注意が必要です。

## 新・看護部感染対策委員 14名誕生!

7月21日に研修を終え、今年度新たに感染対策委員に任命された14名の方々に認定証とバッジの授与式が行われました。感染対策委員の役割は、コロナ禍で感染対策の意識が強まる中、それぞれの部署の感染対策の要となります。委員メンバーだけでは活動は成り立ちません。皆で協力して、病院全体の感染対策に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願いします。(ICT看護師 西紋悠子)

